

金目エコだより 第31号

発行日 令和2年5月1日
発行者 金目エコミュージアム広報委員会
連絡先 平塚市立金目公民館内 ☎58-0101
<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

回覧

金目の花見どころ

金目には神社仏閣、学校、民家にも桜が植えられ、またその品種もソメイヨシノを始め江戸彼岸桜、大島桜、緋寒桜、山桜と数多くの園芸種を見ることができます。今年花見が出来なかった方は、来年はぜひ金目全域を歩き回って花見をしてください。金目の桜の見どころはたくさんあります。新たに金目の魅力を再発見できることでしょう。



かながわエコミュージアムフォーラム2020開催！

2月16日(日)、かながわエコミュージアムフォーラム2020が茅ヶ崎市役所市民ふれあいプラザで開催されました。

このフォーラムは、昨年9月の ICOM 京都国際博物館学会議に出席した各国の研究者が神奈川県内のエコミュージアムを見学し、フォーラムを開催するというものでしたが、当日、台風の影響で中止となったため、今回新たにフォーラムとして開催したものです。

今回参加したのは、県内の「茅ヶ崎市まるごとふるさと発見博物館」と「三浦半島まるごと博物館」及び「金目エコミュージアム」の3団体です。

まず事例発表として3団体から各グループの活動紹介、続いて横浜国立大学の大原教授の基調講演、そして最後にパネルディスカッションが行われました。

金目エコミュージアムからは7名が出席し、会を代表して米村会長が金目エコミュージアムの設立経過や各グループの活動内容を紹介しました。

基調講演は、大原教授から ICOM2019 で検討された「ミュージアム」の定義についての検討内容の説明がありました。

パネルディスカッションでは、「エコミュージアムのおもしろさ」というテーマで意見交換があり、エコの概念と自分たちの活動との差異や博物館との関わり方などについて活発な意見が交わされました。

現在、金目エコミュージアムは、自然観察会やホテル観察会などを行う「自然学級グループ」、郷土史の研究発表や金目地域のガイドを行う「金目ガイドグループ」、野菜塾、柿塾や朝市、味噌づくりなどを行う「農・食文化グループ」及びわかば祭りや収穫祭を開催する「祭・遊び文化グループ」



金目エコ活動を紹介する米村会長

の4つがあります。これからも「おもしろさ」を体感できるエコミュージアム活動をすすめてまいります。

金目地区の皆様、参加してみたいかがでしょうか。**会員募集中です！**

(事業サポートG 窪田一夫)

多摩川エコミュージアムと交流！

金目エコミュージアムでは、他のエコミュージアムを研究して自分たちのエコミュージアム活動に生かそうと、1月22日(水)、川崎市にあるNPO 法人多摩川エコミュージアム(多摩エコ)を訪問しました。

登戸駅から南に歩いて10分ほど、多摩川河川敷に接したところに「二ヶ領せせらぎ館」があり、多摩エコはこの施設の管理運営を国土交通省から任せられ、この施設を拠点に活動を展開しています。多摩エコは、多摩川流域の自然・歴史・文化を再認識し、これらを守り、育み、継承していくため、この施設を拠点に年間を通じて様々なイベントや広報活動を行っています。

金目エコの参加者は11名。施設の見学後、多摩エコについて説明があり、その後活発な意見交換会が行われました。

多摩エコは、これらのイベント等を開催するに当たって様々なノウハウを持ち、また情報発信力の高さなど、金目エコとして、今後の活動に大きな収穫となりました。

そして何よりも「エコ活動は楽しく進めること」との代表理事の言葉が、エコミュージアム活動を進めるうえでの原動力であるとの想いをもちました。

金目エコでは、これからも「楽しく！」を基本に活動を進めてまいります。

(事業サポートG 窪田一夫)



多摩エコの皆さんと記念撮影